

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



Daiichi-Sankyo



株主通信 Vol.20

2018年11月発行号

P.1 社長が語る「2025年ビジョン実現に向けた取り組み」

2025年ビジョンと第4期中期経営計画

P.7 コーポレートガバナンス

P.8 株主の皆様とのコミュニケーション

P.10 2018年度第2四半期累計 連結業績

第一三共株式会社

証券コード 4568

社長が語る「2025年ビジョン実現に向けた取り組み」



本年2018年に日本各地で発生した豪雨、台風、地震で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。被災地域の一日も早い復興を祈念いたします。

第一三共グループは、**革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する**という企業理念のもと、2025年ビジョン**「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」**の実現に向けた転換を進めています。

2025年ビジョンと第4期中期経営計画

当社は、2016年3月に**「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」**となることを**「2025年ビジョン」**として掲げました。従来の循環器領域を中心とした事業から、**がん領域を中心とするスペシャルティ領域**(病院・専門医で主に処方される医薬品)での事業へ**転換を進めるための計画**として、**第4期中期経営計画**を策定し、6つの戦略目標を中心に**持続的成長基盤の確立**に取り組んでおります。

2025年ビジョン

**がんに強みを持つ
先進的グローバル
創薬企業**

第4期中期経営計画

2025年に向けた

転換

6つの戦略目標の進捗

1 戦略目標 エドキサバンの成長

- グローバル売上収益の拡大 (2017年度売上収益:771億円)
- 日本、ドイツ、韓国での市場シェアの大幅拡大
- 承認・上市国の拡大 (2017年度末:28カ国)

2 戦略目標 日本No.1カンパニーとして成長

- 2年連続国内医療用医薬品売上No.1
- 主力6製品の売上収益拡大 (2017年度売上収益:2,128億円)
- ▲ 薬価制度の抜本改革による事業環境の不透明感

3 戦略目標 米国事業の拡大

- ルイトポルド事業の順調な拡大 (2017年度売上収益:1,054億円)
- インジェクタファーの売上収益拡大 (2017年度売上収益:343億円)
- ▲ 疼痛治療薬の開発失敗、導入開発品の権利返還

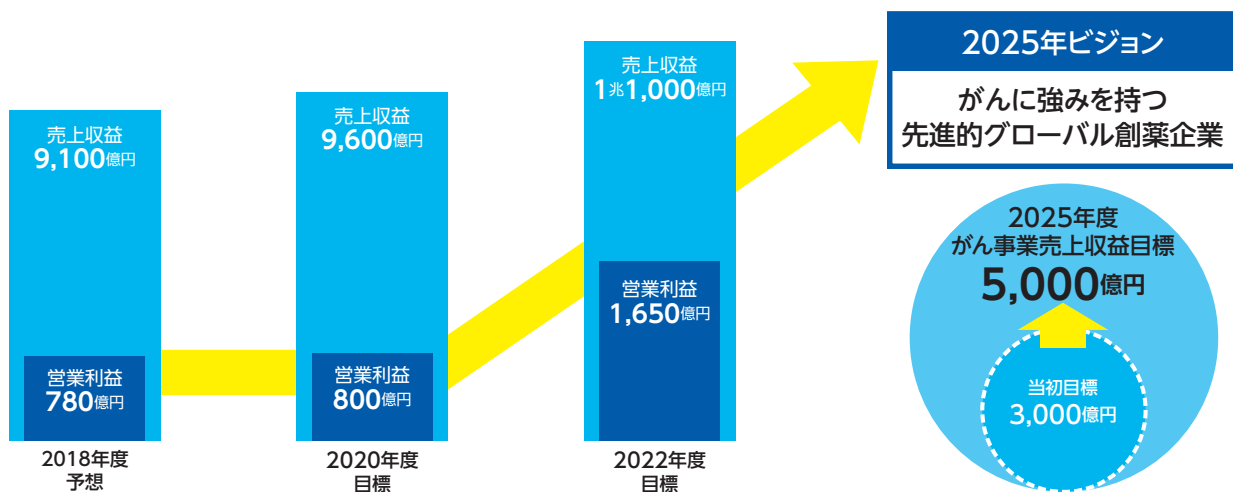
第4期中期経営計画の進捗と見直し

6つの戦略目標のうち、抗凝固剤**エドキサバン**については**当初目標を超える勢いで拡大**しています。**日本事業**は順調に成長しているものの、薬価制度の抜本改革によって、事業環境に**不透明感**が出てきています。また、**米国事業**は、鉄欠乏性貧血治療剤を中心としたライトポルド事業が順調に拡大しているものの、疼痛治療薬の開発失敗等により、**当初目標の達成が困難**な状況です。一方、**がん事業の立上げ・確立**については、DS-8201をはじめとする新製品の開発が**大変順調**に進んでおり、**当初目標以上の成果**を獲得する期待が膨らんできました。また、細胞治療薬等、先進的医薬品の継続的創出に向けた取り組みと組織再編を通じた利益創出力の強化も進めています。

がん領域開発品の価値が大きく向上している今、将来大きなリターンが期待できる投資機会であると判断し、**がん事業への投資を増強・集中**することで**将来の成長を加速**させることを決定しました。

当初の2020年度計数目標、**売上収益1兆1,000億円**、**営業利益1,650億円**、**ROE 8%以上**は2年遅れの**2022年度の実現**を見込みますが、がん領域を中心に2018年度から2022年度の5年間で、1兆1,000億円まで投資を拡大することで、2025年度には、**がん事業の売上収益**を当初目標の3,000億円を上回る**5,000億円規模**に育てることを目指します。

なお、**株主還元**につきましては、1株当たり**70円以上の年間配当**と**機動的な自己株式取得**により、第4期中期経営計画期間中の**総還元性向100%以上**とする当初の方針を**2022年度まで維持**します。



4 がん事業の立上げ・確立

- DS-8201:臨床試験の順調な進捗、複数の適応症への試験拡大
- 複数のADCフランチャイズの臨床試験開始
- キザルチニブ・ペキシグルチニブの申請・上市準備

がん事業の立上げ・確立 ▶ P3

5 SOC*を変革する 先進的医薬品の継続的創出

- 細胞治療、再生医療への挑戦 (CAR-T、iPS細胞由来心筋シート等)
- オープンイノベーションの進展

* SOC : Standard of Careの略。現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法




6 利益創出力の強化

- 欧米の営業体制の最適化 (2年累計:約550人削減)
- グローバル研究開発体制の最適化 (4拠点閉鎖)
- グローバル生産体制の最適化 (2拠点閉鎖)

戦略目標 **4** がん事業の立上げ・確立

2025年ビジョン「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」の実現に向けて、第一三共では、がん事業の重点領域として3本の柱を設定しています。**2025年までに価値の高い7つの新規化合物を創製**し、世界をリードする創薬企業となるべく、研究開発に取り組んでいます。

3本の柱 2025年までに**7つ**の新規の化合物創製

 ×3 抗体薬物複合体 (ADC) フランチャイズ	 ×3 急性骨髄性白血病 (AML) フランチャイズ	 ×1 ブレイクスルー サイエンス
--	---	--



ADCフランチャイズ

▶ DS-8201

当社の抗体薬物複合体 (ADC) の治療薬群の中で、最も開発が先行している**DS-8201**は、HER2抗原が発現した様々な種類のがんを対象とした治療薬として臨床試験を進めています。

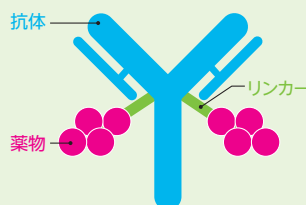
乳がんについては、**既存のADC薬** (T-DM1: 2017年度売上収益1,000億円規模) と**同等以上の薬剤**となる可能性を示す試験データが蓄積しています。また、**既存ADC薬に適応のない乳がん** (既存ADC薬の2倍以上の患者数) **にも効果**を示すなど、良好なデータが充実してきています。さらに、既存ADC薬の適応がない**胃がん、大腸がん、肺がん**などについても**著効例**が確認され、期待が一層高まっています。

抗体薬物複合体 (ADC) とは? 第一三共のADCの特徴は?

抗体薬物複合体 (ADC) は、がん細胞表面に発現するタンパク質 (抗原) に結合する抗体に、抗がん剤である薬物をリンカーと呼ばれる化合物を介して複合させた薬剤で、抗体が抗がん剤をがん細胞に運ぶことで、がんを死滅させるメカニズムです。

当社のADC技術には以下の優れた特徴があります。

- 薬物**
- 従来の化学療法剤に比べ、がん細胞を死滅させる作用が強力
 - 薬物が代謝・排泄されるまでの時間が短く、副作用リスクが少ない
 - ターゲット周辺のがん細胞も死滅させる効果がある



- リンカー**
- 1つの抗体に約8個の薬物を均一に結合できる
 - 安定性が高く、血中で薬物が放出されず、選択的にがん細胞内に薬物を届けることができる

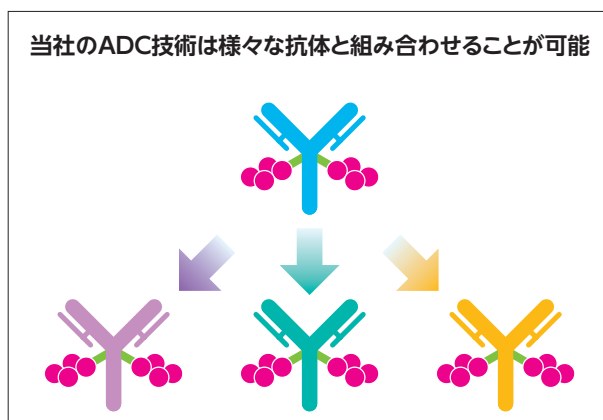
開発が先行している乳がん・胃がんについては、これまでの臨床試験データにより、日米の薬事審査当局から、優先的な承認審査を行う開発品として指定を受けています。**2020年度の申請**を目標に臨床試験を進めていますが、乳がんについては**2019年度中の前倒し**も視野に開発を加速しています。

さらに、DS-8201の製品価値を一層高めるため、**オプジーボなどの免疫チェックポイント阻害剤**との併用効果を評価する試験も順次進めています。

▶ADCフランチャイズの拡大

2018年6月には、当社ADCとして2番目に臨床試験を開始したU3-1402の試験データを初めて学会発表しました。**U3-1402**は、DS-8201と同じADC技術を用いたHER3抗原を標的とした薬剤ですが、**DS-8201**が当初示したデータと**同じようなデータ**を獲得し、HER3抗体を用いた新薬として期待が高まってきました。同時に、当社のADC技術を応用して開発中のDS-1062、DS-7300、DS-6157、DS-6000など、**様々な抗体を組み合わせたADC薬剤も効果を示す**可能性が高まってきたと考えています。

自社抗体に加え、外部企業の抗体を用いたADC薬剤も開発するなど、ADCフランチャイズの価値最大化のための取り組みを加速しています。



ADCフランチャイズパイプライン(新薬候補群)

2018年10月現在

一般名／開発コード (標的抗原)	目標適応	地域	開発ステージ				
			前臨床	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請中
トラスツマブ デルクスステカン/ DS-8201 (HER2)	乳がん (T-DM1 適応) (T-DM1 非適応)	日米欧亜	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
	胃がん	日亜	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
	大腸がん	日米欧	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
	肺がん	日米欧	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
	免疫チェックポイント阻害剤との併用 (乳がん、膀胱がん、肺がん、固形がん)	米欧亜	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
U3-1402(HER3)	乳がん	日米	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
	肺がん	米	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
DS-1062(TROP2)	肺がん	日米	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
DS-7300(B7-H3)	固形がん	—	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
DS-6157(GPR20)	消化管間質のがん	—	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
DS-6000(非開示)	腎臓がん、卵巣がん	—	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████
—(TA-MUC1*)	固形がん	—	██████████	██████████	██████████	██████████	██████████

乳がん：
優先承認審査/
画期的治療薬指定
(米)
胃がん：
先駆け審査品目
指定(日)

*TA-MUC1：外部企業ががん治療薬として開発中の抗体

★：フェーズ2試験の結果をもって申請予定



AMLフランチャイズ

▶キザルチニブの開発状況

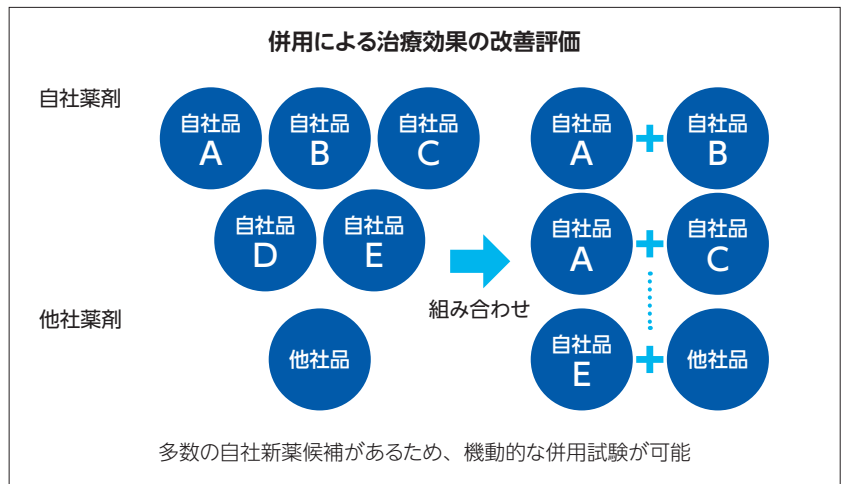
2つ目の柱、急性骨髄性白血病(AML)治療薬群の開発も順調に進捗しています。

最も開発が先行している**キザルチニブ**は、再発性・難治性のAMLの患者さんを対象とした臨床試験において、既存の化学療法剤に比べ、生存期間・生存率を有意に延長し、**2018年9月以降**、**日本、米国、欧州**での**承認申請**を行いました。さらに、AMLの診断後に初めて用いられる一次治療薬としての適応を目指す試験についても、症例登録が順調に進んでいます。

AML治療では、**複数の治療薬を組み合わせる**ことで、**治療効果の改善**が見込まれます。当社は多くの自社開発品を持つことから、**様々な治療薬の併用効果を機動的に確認**することができます。現在、自社開発品間の併用に加え、他社の治療薬との併用効果を確認する活動も、鋭意進めています。その取り組みの一環として、米国テキサス大学MD Andersonがんセンターと提携し、様々な併用効果の評価に取り組んでいます。

急性骨髄性白血病(AML)とは?

白血病は三大血液がんの一つで、骨髄中の造血幹細胞が異常増殖し、がん化した疾患です。白血病の中でも、AMLは致死率が高く、医療現場から有用な治療薬の開発が強く望まれています。



AMLフランチャイズパイプライン(新薬候補群)

2018年10月現在

一般名/開発コード	目標適応	地域	開発ステージ				
			前臨床	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請中
キザルチニブ/ AC220	AML(再発・難治性)	日米欧亜	■	■	■	■	■
	AML(一次治療)	日米欧亜	■	■	■	■	■
ミラデメタン/ DS-3032	固形がん	日米	■	■	■	■	■
	AML(キザルチニブ/他社薬剤との併用)	米	■	■	■	■	■
DS-3201	AML以外の血液がん	日	■	■	■	■	■
	AML、その他の血液がん	米	■	■	■	■	■
PLX51107	AML、固形がん他	米	■	■	■	■	■
DS-1001	AML、神経膠腫*	日	■	■	■	■	■
PLX2853	AML、固形がん	米	■	■	■	■	■

・ 画期的治療薬指定(米)
・ 希少疾病用医療品指定(日米欧)

*神経膠腫：脳腫瘍の一種

コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー®2017「Winner Company」に選出されました

第一三共グループは、経営環境の変化に対してより迅速かつ機動的に対応できる経営体制を構築するとともに、法令の遵守と経営の透明性を確保し、経営と執行に対する監督機能の強化を図り、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの信頼に応えることのできるコーポレートガバナンス体制の構築を重視しています。

こうしたガバナンスへの取り組み状況が評価され、コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー®2017の「Winner Company」に選出されました。

この企業表彰は、東証1部上場企業約2,000社を対象に、中長期的な成長を遂げている企業を後押しすることを目的としており、審査委員から「第一三共は、コーポレートガバナンスにおいて重要なことである『やるべきことをきっちりとやっている』企業であり、攻めのガバナンスと守りのガバナンスの両面を実践している」との講評をいただきました。

指名委員会・報酬委員会の設置も評価項目の一つですが、当社では、経営の透明性を確保すべく、両委員会ともに社外取締役のみで構成しています。



取締役協会会長 宮内義彦氏と中山CEO

指名・報酬委員会委員長メッセージ

指名委員会委員長からのメッセージ

取締役会の委嘱による諮問機関である指名委員会の主な役目は、「透明性」を確保しつつ、取締役や執行役員を選任や解任を検討し提案することにあります。私が委員長を務める指名委員会では、当社の持続的な発展と経営者としての要件などの観点から議論を重ねています。2017年度から中山CEO、眞鍋COOの新しい体制が始まっていますが、厳しい経営環境の中で、更なる企業発展に向けて、経営陣の評価、役員の多様性や若返り、経営幹部候補の育成なども含め、経営体制の更なる強化が図れるよう引き続き検討していきたいと思っております。



社外取締役(独立役員)
宇治 則孝

報酬委員会委員長からのメッセージ

私が委員長を務める、取締役会の委嘱による諮問機関である報酬委員会の主な役目は、責任に見合った報酬体系を構築して役員意識を高め、業績を向上させることにあります。それと共に、株主の視点に立ち、役員報酬と会社の業績連動性強化のための施策の検討と導入について議論してきました。

次なる課題は、グローバル経営の視点が益々必要になる状況下、国内外役員の報酬を決める物差しの一元化に向けた一歩を踏み出すことにあります。



社外取締役(独立役員)
戸田 博史

株主総会のご報告

2018年6月18日にロイヤルパークホテル(東京都中央区)において第13回定時株主総会を開催しました。事業報告、第4期中期経営計画の進捗説明に続く質疑応答では、10名の株主様から株主還元策、がん領域の研究開発投資、DS-8201と他の免疫チェックポイント阻害剤との併用療法、ワクチン事業への取り組み、iPS細胞由来心筋シートを用いた重症心不全治療薬の実用化等、幅広い視点からご質問をいただき、議長をはじめとする出席役員からご回答を申し上げます。

会場には、約400名の株主様にご来場いただきましたが、当日の議長プレゼンを含む事業報告の内容を、ご来場できなかった株主様にもご覧いただけるようウェブサイトにも公開しております。是非ご覧ください。



株主総会で説明する眞鍋議長

[WEB](#) [第一三共 株主総会](#) [検索](#)



株主説明会(大阪)のご案内

株主通信アンケートに寄せられた「東京以外でも株主総会のような説明が聞きたい」とのご要望から開催が始まった社長登壇の株主説明会も3回目となりました。株主総会同様に、当社の現況と成長戦略をご説明した後、株主様からのご質問にお答えします。

ご参加を希望される株主様は、2018年12月20日(木)までにご応募ください。

開催概要

開催日 2019年2月17日(日) 13:00~14:30
内容 第一三共の現況と成長戦略
説明者 代表取締役社長 兼 COO 眞鍋 淳
場所 大阪市内(ホテル)
定員 約400名(事前登録制)

本件に関するお問合せ先 第一三共株式会社

お電話 TEL 03-6225-1125(株主様専用ダイヤル)
受付時間 8:45~17:30
(土日・祝祭日ならびに当社休日を除く)



前回の株主説明会の様子(名古屋東急ホテル)

よくあるご質問

Q.申込者は全員参加できるの?

誠に恐縮ながら、会場の都合により応募者多数の場合には抽選とさせていただきます。

Q.家族は同伴できないの?

原則として株主様以外のご入場はお断りしております。介添えが必要な場合はご相談ください。

Q.交通費は出るの?

会場までの交通費は、株主様ご本人負担となります。

Q.お土産はあるの?

お土産をご用意しておりません。

株主の皆様とのコミュニケーション

前号の株主通信アンケートでは、多数の株主様にご返信をいただきまして、誠にありがとうございました。その際に寄せられましたご質問にお答えいたします。

Q 女性活躍推進の取り組みについて教えてください。

A 当社は、一人ひとりの能力や適性に応じた活躍の機会を提供し、仕事を通じた成長を実現するための環境整備に継続して取り組んでいます。また、育児休業からの円滑な復職や復職後の仕事との両立をサポートする育児支援制度を設けるとともに、制度を利用しやすい環境づくりにも積極的に取り組んでいます。このような取り組みの結果、子育て企業の認定マーク「くるみん」を取得しており、2018年5月には、厚生労働大臣が女性活躍推進に関する取り組みの実施状況等が優良な企業を認定する「えるぼし」の最高位を取得しました。



Q 業務においてAIを活用していますか？

A 当社では、当社製品に関する患者さんや医療関係者からのお問い合わせにお答えするため、AI(人工知能)を利用したコールセンター支援システムを活用しています。このシステムは、AIがお問い合わせの意図・意味を解釈して、事前に蓄積した質問項目とその答えの中から、関連性の高い情報を瞬時に見つけ出し、最適な回答を当社の照会対応者に提案するものです。当社には、1日に約500件のお問い合わせが寄せられますが、本システムの活用により、必要かつ最適な情報をより早くお届けすることが可能となりました。これからも当社製品を適正にご使用いただくための情報提供を通じて医療に貢献してまいります。

Q 株主還元方針について教えてください。

A 当社は、第4期中期経営計画の期間中、年間70円以上の安定的な普通配当と、機動的な自己株式取得により、総還元性向*100%以上とする株主還元方針です。この方針のもと、2016年度、2017年度ともに、普通配当70円、自己株式取得500億円を実施し、2年間累計の総還元性向は169.2%となりました。2018年度においても、1株当たり年間70円(中間配当・期末配当 各35円)の配当を予定しています。

	第4期中期経営計画	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 予想
年間配当	70円以上	70円	70円	70円(予定)
自己株式取得	機動的	500億円	500億円	機動的
総還元性向*	100%以上	180.7%	159.1%	—
		2年間累計 169.2%		

*総還元性向=(配当金の総額+自己株式の取得総額)/親会社の所有者に帰属する当期利益

もっと●●
して欲しい

株主通信アンケートにご協力ください

株主の皆様の声を経後の株主通信の編集やIR活動に反映するため、引き続きアンケートを実施いたします。当社に対するご要望をぜひお寄せください。
(受付期間:2018年12月1日~2019年1月15日)

なぜ●●
なの?

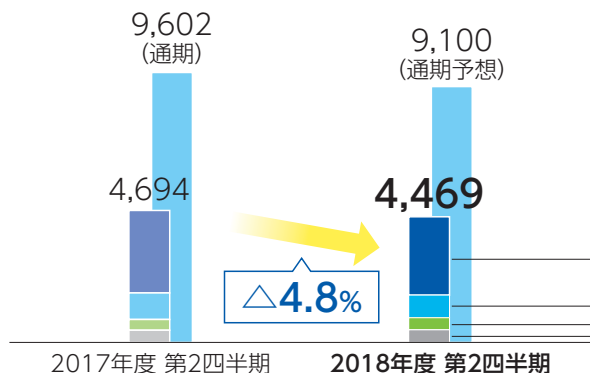


同封のアンケートはがきにご回答いただき、ご返送ください。
切手は不要です。

2018年度第2四半期累計 連結業績

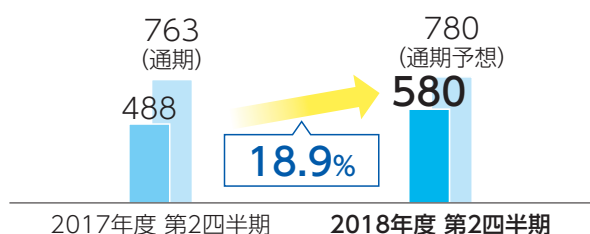
■売上収益

(単位:億円)



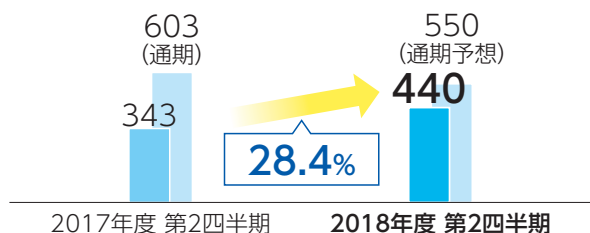
■営業利益

(単位:億円)



■当期利益(親会社帰属)

(単位:億円)



■主要ビジネスユニット・主要製品 売上推移

(単位:億円)

	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	増減率
日本			
日本カンパニー+ワクチン事業	2,576	2,437	△5.4%
ネキシウム(抗潰瘍剤)	447	386	△13.7%
リクシアナ(抗凝固剤)	197	301	53.2%
メモリー(アルツハイマー型認知症治療剤)	245	252	2.9%
ロキソニン(消炎鎮痛剤)	189	156	△17.2%
プラリア(骨粗鬆症治療剤・関節 リウマチに伴う骨びらの進行抑制剤)	109	130	19.7%
テネリア(2型糖尿病治療剤)	132	126	△4.4%
オルメテック(高血圧症治療剤)	319	79	△75.4%
エフィエント(抗血小板剤)	64	70	9.4%
第一三共エスファ品(ジェネリック医薬品)	173	265	53.1%
第一三共ヘルスケア	358	348	△2.8%
米国			
第一三共Inc.	420	220	△47.8%
ウェルコール(高コレステロール 血症治療剤・2型糖尿病治療剤)	197	87	△55.9%
オルメサルタン(高血圧症治療剤)	103	58	△43.4%
エフィエント(抗血小板剤)	80	27	△65.8%
ルイトポルド	524	584	11.6%
インジェクタファー(鉄欠乏性貧血治療剤)	161	220	36.6%
ヴェノファー(鉄欠乏性貧血治療剤)	147	166	12.4%
欧州			
第一三共ヨーロッパGmbH	382	430	12.5%
リクシアナ(抗凝固剤)	110	208	88.8%
オルメサルタン(高血圧症治療剤)	180	144	△19.7%
エフィエント(抗血小板剤)	39	33	△15.8%
その他			
アジア/中南米(ASCA)	386	401	4.0%

決算のポイント

2018年度第2四半期の売上収益は、エドキサバン(日欧での製品名:リクシアナ)等の主力品が伸長したものの、独占販売期間の満了によるオルメサルタンの減収や、薬価制度改革に伴う薬価引下げの影響等により、前年同期に比べ4.8%減収の4,469億円となりました。

営業利益は、制吐剤配合麻薬性鎮痛剤CL-108の権利返還による無形資産の減損損失を前年同期に研究開発費として計上していたこと等から、18.9%増益の580億円となりました。

当期利益(親会社帰属)は、米国における税率引き下げの影響等により、法人税等が減少したこと等から、28.4%増益の440億円となりました。

なお、2018年度の通期業績は、売上収益9,100億円、営業利益780億円、当期利益(親会社帰属)550億円を見込んでいます。

為替レート	2017年度 第2四半期	2018年度 第2四半期	増減
米ドル/円	111.07	110.27	△0.80
ユーロ/円	126.29	129.84	3.55

当社ウェブサイト、決算のより詳細な
情報をご覧ください。



第一三共 決算

検索



2025年ビジョンの実現に向けた取り組みや連結業績など、株主・投資家の皆さま向けの情報の他、健康を保つための食事・運動や病気・薬を知る上で役立つ、一般・患者の皆さま向けの情報など、様々な情報を当社ウェブサイトに掲載しています。



QRコードから直接アクセスできます。



会社概要

- 第一三共とは
- 事業紹介
- 会社情報
- CSR
- 研究開発情報
- 第一三共ライブラリ

トップメッセージ



バリューレポート2018




株主・投資家の皆さま

- 社長メッセージ
- IRライブラリ
- 株主・株式情報
- 個人投資家の皆さま
- メールマガジン
- 財務ハイライト

最新のIR情報を原則毎月2回お届けします。



 経営者による投資家向け説明会の配信動画

当社グループの経営方針、事業戦略、財務情報、CSR活動等をわかりやすくお伝えする企業レポート。
※ 無料請求も承っています。

一般・患者の皆さま

- 健康を保つための食事・運動
- 高齢者の生活サポート
- 病気について知る
- 薬について知る
- 皆さまの声をかたちに知る・見る・体験する



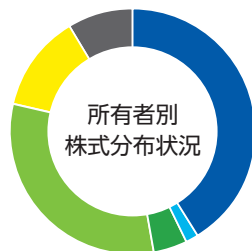
企業インフォメーション (2018年9月30日現在)

会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医薬品等の研究、開発、製造、販売及び輸出入
従業員数	14,796名(連結)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (連絡先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

株式情報

発行済株式総数	709,011,343株
株主数	75,053名



政府及び地方公共団体	0.00%
金融機関	41.21%
金融商品取引業者	1.81%
その他の法人	4.20%
外国法人等	31.63%
個人その他	12.53%
自己株式	8.64%